

# 社団法人 日本天文学会 2012年度事業報告書

## I. 七夕講演会（定款第2章第5条8項に該当の事業）

1. (7月7日を中心とした)7月上旬に全国同時七夕講演会を全国88か所で開催し、約5000人が参加した。また、同時期には京都府の小中高校を対象に京都大学のスタッフや大学院生による出張天文授業も行われ47校1000人が参加した。

## II. 出版物の刊行（定款第2章第5条2、3項に該当の事業）

1. 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan) : 第64巻1号~6号の計6回刊行。総論文数152編(うちLetter9編)、総頁数1,664頁、発行部数1,200部、偶数月の25日発行。
2. 天文月報 : 第105巻1号-12号を刊行。総頁数814頁、総目次10頁、発行部数3,300部、毎月20日発行
3. 年会予稿集 : 2012年春・秋季年会の2回発行、総頁数685頁、春800部、秋750部印刷。
4. ジュニアセッション : 春季講演予稿集128頁、600部印刷。
5. 公開講演会パンフレット : 春・秋季年会時の公開講演会の際に配付するパンフレットを予定していたが、最終的に製作しなかった。

## III. 年会の開催（定款第2章第5条1項に該当の事業）

### 1. 2012年春季年会

3月19日(月)から22日(木)の4日間、龍谷大学深草キャンパス(京都府・京都市)にて口頭講演会場9、ポスター会場18を使って開催した。講演件数は口頭講演が477件、ポスター講演が270件で、ポストデッドラインペーパー2件を含め、合計749件の講演があった。年会参加者は1020名であった。ジュニアセッションの参加者は約400名であった。本年会では、特別セッション2件(「ALMA特別セッション:ALMA初期科学運用観測開始」, 「TMT特別セッション」), 企画セッション2件(「プラズマ宇宙物理」, 「X線天文衛星ASTRO-Hで拓く新世紀のサイエンス」), ジュニアセッション, 天文教育フォーラム, 林忠四郎賞受賞記念講演(受賞者: 田村元秀氏(国立天文台))を行った。保育室, 正会員向け展示ブース2件(「ALMA展示ブース:ALMAプロポーザル作成・データ解析相談室」, 「TMT展示ブース:TMT望遠鏡セグメント鏡の試作」)を開設した。また、年会に先立ち3月18日(日)に記者発表講演(3件)を行った。同3月18日に、公開講演会を開催し、約300名が来場した。懇親会は3月21日(水)に行い、出席者は約250名であった。

### 2. 2012年秋季年会

9月19日(水)から21日(金)の3日間、大分大学(大分県・大分市)にて口頭講演会場10、ポスター会場7を使って開催した。講演件数は口頭講演が464件、ポスター講演が245件であり、合計709講演であった。年会参加者は897名であった。また、特別セッション1件(「次世代赤外線天文衛星SPICA特別セッション」), 企画セッション2件(「多波長偏光」, 「時間領域の天文学」), ジュニアセッション, 天文教育フォーラムを行った。保育室を開設した。また、年会に先立ち9月18日(火)に記者発表講演(3件)を行った。9月22日(土)に、公開講演会を開催し、約250名が来場した。懇親会は9月20日(木)に行い、出席者は約262名であった。

#### IV. 各賞の授与（定款第2章第5条に該当の事業）

2011年度日本天文学会各賞は、2012年2月5日の評議員会で次のように決定し、春季通常総会の場で授与した。

◇ 天体発見賞（8氏）

- ・西村栄男（にしむらひでお）氏  
新星 いて座 V5587 の発見
- ・西山浩一（にしやまこういち）氏、椛島富士夫（かばしまふじお）氏  
新星 いて座 V5588 の発見
- ・板垣公一（いたがきこういち）氏  
超新星 2011B の発見、超新星 2011ap の発見、超新星 2011ek の発見、超新星 2011fi の発見、超新星 2011fp の発見、超新星 2011im の発見、超新星 2011iy の発見
- ・坪井正紀（つばいまさき）氏  
超新星 2011eh の発見、超新星 2011em の発見
- ・広瀬洋治（ひろせようじ）氏  
超新星 2011hk の発見、超新星 2011jh の発見
- ・古山茂（ふるやましげる）氏  
超新星 2011ir の発見
- ・中村祐二（なかむらゆうじ）氏  
新星 さそり座 V1313 の発見

◇ 天体発見功労賞（3氏）

- ・坪井正紀（つばいまさき）氏  
超新星 2011B の独立発見
- ・小島信久（こじまのぶひさ）氏  
超新星 2011bc の独立発見
- ・板垣公一（いたがきこういち）氏  
超新星 2011hk の独立発見

◇ 天文功労賞（3氏）

長期的な業績

- ・浜野和弘巳（はまのわひろみ）氏、浜野和博子（はまのわひろこ）氏  
「長期にわたる緻密なライトカーブ観測による小惑星研究への貢献」

短期的な業績

- ・佐藤英貴（さとうひでたか）氏  
「特異小惑星における彗星活動の検出」

◇ 林 忠四郎賞（1氏）

田村元秀氏：国立天文台・准教授

研究の表題：「太陽系外惑星とその誕生現場の直接観測による研究」

◇ 欧文研究報告論文賞（2編）

- ・論文題目：Implications for Cosmic Reionization from the Optical Afterglow Spectrum of the Gamma-Ray Burst 050904 at  $z=6.3$

著者：戸谷友則、Totani, Tomonori 他

出版年等：2006年、Vol. 58, pp.485-498.

・論文題目：Nobeyama CO Atlas of Nearby Spiral Galaxies: Distribution of Molecular Gas in Barred and Nonbarred Spiral galaxies.

著者：久野成夫 Kuno, Nario 他

出版年等：2007年、Vol.59, pp.117-166.

◇ 研究奨励賞

該当者なし

## V. 総会・評議員会・理事会及び監査(定款第4章第18条および第6章第29-43

### 条に該当の事業)

#### 1. 総会

2012年春季総会

日時：2012年3月20日(火) 17:00～19:10

場所：龍谷大学深草キャンパス3号館301号室(京都府京都市)

議長：岡村 定矩 (天文月報2012年6月号 議事録参照)

2012年度秋季総会

日時：2012年9月20日(木) 16:00～17:20

場所：大分大学且野原キャンパス第二大講義室(大分県大分市)

議長：岡村 定矩 (天文月報2012年12月号 議事録参照)

臨時総会

日時：2012年11月26日(月) 17:00～17:40

場所：国立天文台解析研究棟大セミナー室(東京都三鷹市)

議長：岡村 定矩 (天文月報2013年2月号 議事録参照)

#### 2. 評議員会

日時：2012年1月28日(土) 12:00～17:00

場所：東京大学理学部1号館336号室(東京都文京区)

議長：須藤 靖 (天文月報2012年4月号 議事録参照)

日時：2012年3月20日(火) 12:30～13:30

場所：龍谷大学深草キャンパス2号館203号室(京都府京都市)

議長：海部 宣男 (天文月報2012年6月号 議事録参照)

日時：2012年7月14日(土) 13:00～17:00

場所：東京大学理学部1号館336号室(東京都文京区)

議長：渡部 潤一 (天文月報2012年10月号 議事録参照)

日時：2012年9月20日(木) 12:30～13:30

場 所：大分大学旦野原キャンパス教養教育棟2階会議室1（大分県大分市）  
議 長：牧島 一夫（天文月報2012年12月号 議事録参照）

日 時：2012年10月28日（日）15:00～16:00  
場 所：東京大学理学部4号館1116号室（東京都文京区）  
議 長：井上 一（天文月報2013年3月号 議事録参照）

### 3. 理事会

日 時：2012年1月21日（土）13:00～18:00  
場 所：東京八重洲ホール302号室（東京都中央区）  
議 長：岡村 定矩（天文月報2012年4月号 議事録参照）

日 時：2012年3月19日（月）18:30～19:50  
場 所：龍谷大学深草キャンパス2号館203号室（京都府京都市）  
議 長：岡村 定矩（天文月報2012年6月号 議事録参照）

日 時：2012年6月23日（土）13:00～18:00  
場 所：東京八重洲ホール302号室（東京都中央区）  
議 長：岡村 定矩（天文月報2012年10月号 議事録参照）

日 時：2012年9月19日（水）18:30～19:50  
場 所：大分大学旦野原キャンパス教養教育棟2階会議室1（大分県大分市）  
議 長：岡村 定矩（天文月報2012年12月号 議事録参照）

日 時：2012年10月28日（日）13:00～14:00  
場 所：東京大学理学部4号館1116号室（東京都文京区）  
議 長：岡村 定矩（天文月報2013年3月号 議事録参照）

### 4. 2011年度監査

日 時：2012年1月18日（水）9:00～12:00  
場 所：国立天文台三鷹キャンパス解析研究棟1F院生セミナー室（三鷹市）  
出席者：紀伊 恒男、牧島 一夫、田代 信、松尾 宏、竹田 洋一、本原 顕太郎、西野 洋平

## VI. 委員会など（「日本天文学会委員会等に関する共通内規」に準拠）

本年度は以下の16の委員会と1の顧問会議において構成メンバー（任期2年の第2年目）により各種活動が行なわれた。

#### ◇ 欧文研究報告編集顧問会議

編集顧問会議を3月21日に龍谷大学で、11月17日に国立天文台で行った。外国人の論文査読経験者や有力雑誌の編集長に、PASJの今後について意見を聞くアンケートを実施し、集計した。その結果を11月の編集顧問・編集委員会議で報告検討した。編集委員の質については概ね高い評価を受けた。問題点としては論文受理から出版までの時間がかかり過ぎている現状に対する不満が指摘された。出版事業をOUPへ依頼する件について編集委員会およびOUPより提案を聞き、了承した。

- ◇ 欧文研究報告編集委員会  
2012年度は、169編の論文が投稿された。通常号を6回発行し、掲載総論文数152編、総頁数は1,664頁となった。64巻よりページ番号制から掲載番号制に変更し、7月1日以降の投稿論文からレターの上限頁数を5頁へと変更した。2013年度から機関購読料を新たに設定することにし、各機関との契約を進めている。編集顧問・編集委員会議を3月21日に龍谷大学で、11月17日に国立天文台で行った。
  
- ◇ 天文月報編集委員会  
第105巻1号～12号を毎月20日に各号3300部発行した（総ページ数814頁、総目次10頁）。ホットな話題についての特集記事を組み、啓蒙に関わるいくつかのシリーズを企画した。送付用の封筒を紙のものから安価なビニール封筒に変更した。
  
- ◇ 年会実行委員会  
2011年度日本天文学会春季年会（3月19日～22日・龍谷大学）および秋季年会（9月19日～21日・大分大学）を開催した。両年会の準備にあたっては、1月12日および6月29日に年会実行委員会を国立天文台において開き、プログラムを編成した。
  
- ◇ 天文教育委員会  
年会時の公開講演会と天文教育フォーラム（共催）を開催した。2013年度以降開催分についても準備を開始した。講師紹介プログラムについては、本年度は5件の紹介を行った。なお今後の実施方法について検討を進めたが、学会のWebの更新に合わせて本格運用が開始できるようにすることになった。
  
- ◇ 選挙管理委員会  
2012年秋季総会に報告される公益社団法人日本天文学会発足時の代議員35名（任期：2012年度～2015年度の3年3カ月、任期：2012年度～2013年度の1年3カ月）の選挙を定款及び代議員選挙施行細則に則り行った。2012年8月7日～9月6日を投票期間とし、2012年9月7日に開票作業を行い、同附則に基づき、当選者のうち得票数が奇数順位の方を任期3年3カ月、偶数順位の方を任意1年3カ月の代議員とし、次点2名を補欠代議員として選出した。同時に選挙公示を行った2013年初の理事会で決定される（新法人移行スケジュール改正により2012年11月26日臨時総会で決定された）会長候補者（任期：2012年度～2014年度）に関しては、候補者の推薦が1名であったため、理事長選挙施行細則第5条に基づき選挙は行わず、この1名を会長候補者とした。以上の選挙の結果を天文月報2012年12月号（11月20日発行）に発表した。
  
- ◇ 林忠四郎賞選考委員会  
天文月報2012年9月号並びにtennetで林忠四郎賞受賞候補者の推薦と、欧文研究報告論文賞の推薦を会員にお願いした。2012年12月23日に選考委員会を国立天文台で開催し、その中から林忠四郎賞1件、欧文研究報告論文賞2篇を選考し、代議員総会に推薦した。
  
- ◇ 研究奨励賞選考委員会  
2012年度（第24回）の研究奨励賞に関して会員から推薦された受賞候補者を審議し、選考委員会から3人の候補者を2013年2月24日に開催される予定の代議員総会に報告した。
  
- ◇ 天体発見賞選考委員会  
2012年の天体発見賞候補者については、本年度の委員会では審査せず、2013年1月に開催される委員会で決定し、代議員総会に推薦することとした。
  
- ◇ 内地留学奨学金選考委員会

2013年度の内地留学奨学金奨学生の募集を行った。応募者から1名の奨学生（15万円の支給）を決定した（天文月報2013年1月号参照）。また、今年度から内地留学奨学金の応募申請・完了報告書類（様式）を電子化し、学会Webページからダウンロードできるように整備した。

◇ 早川幸男基金選考委員会

渡航旅費補助者の募集を年4回行った。延べ36名の応募者から20名（うち4名は滞在費援助、1名は採択後辞退）を採択した。今年度は昨年度より応募者数が若干増加したが、ここ数年の平均的な応募者数であり、通常の年と同程度の援助を行った。援助額は約212万円となった。本会会員の佐藤明達氏より当基金へ寄付を頂いた。ここに深く感謝いたします。

◇ ネットワーク委員会

メールサーバ、年会のサーバを含む事務所内計算機を常に適正な状態に保持し、重要データ等のバックアップを適切に行なった。

◇ 天文教材委員会

2012年5月21日の金環日食を安全に観察してもらえるよう「金環・部分日食観察ガイドブック」を各都道府県用に47種類制作し、ホームページで公開した。

◇ ジュニアセッション実行委員会

春季年会（龍谷大）にて第14回ジュニアセッションを開催、予稿集を発行した。秋季年会（大分大）においてはポスター発表のみ受け付けて4件の発表があった。

◇ 男女共同参画委員会

多様な構成メンバーがそれぞれの力を発揮して日本天文学会のより一層の活性化を図ることができるよう、共同参画の努力をまとめ、対外的な活動の窓口としても活動している。2012年春秋の年会中に女性天文学研究者の会としてインフォーマルなディスカッションを行った。10～15人ほどの参加者には男性も含まれている。「男女」にこだわることなく共同参画を進めるため、天文学会の他の委員会との連携、そして男女共同参画学協会連絡会のオブザーバー会員として「女子中高生夏の学校」に協力するなど、可能な範囲で活動を続けている。

◇ 衛星設計コンテスト推進委員会

主催団体の一つとして、第20回衛星設計コンテストを行った。村上敏夫氏が審査委員、江副裕一郎氏が企画委員、坂尾太郎氏と岡村定矩理事長が実行委員を務めた。11月10日に最終審査会が相模原市立博物館で開催され、一次審査を通過した18件の発表と質疑応答があった。審査の結果、設計大賞（今回は該当なし）、アイデア大賞、ジュニア大賞をはじめ、各主催団体賞が選定された。日本天文学会賞は、徳山工業高等専門学校チームの『月の縦孔・溶岩チューブ探査機「Diana」』が受賞した。

◇ 推薦委員会

2012年代議員選挙（任期：2014年3月末日または2016年3月末日まで）について、代議員選挙施行細則第7条に則り、候補者の推薦を行った。具体的には、会員から広く候補者の推薦をつるため、2012年6月20日～7月5日に候補者の推薦を受け付けた。受け付け締め切り後、本委員会にて代議員候補として被推薦者の選定を行い、その結果を2012年7月18日に選挙管理委員会へ報告した。

## VII. 助成金（定款第2章第5条5、7項に該当の事業）

- ◇ 内地留学奨学金：  
アマチュアを対象とした内地留学奨学生1名に15万円の支給を行なった。(内地留学奨学金選考委員会の項を参照)
- ◇ 早川幸男基金：  
若手天文研究者の海外での研究活動のための渡航・滞在費の補助として早川幸男基金選考委員会の選定に従い20名に対して総額約212万円の援助を行なった。(早川幸男基金選考委員会の項を参照)
- ◇ 学術交流費(学生の年会参加旅費補助)：  
賛助会員会費をもとに、大学院生などが春季年会(京都大学)、秋季年会(大分大学)に参加して研究発表をするための一部補助を行なった。(発表者：19、総額約123万円)

## VIII. 後援事業等(定款第2章第5条6項に該当の事業)

国際・国内シンポジウムなどの共催1件、後援14件、協賛13件を行った。

承諾日		事業名	宛先(代表者)
1/20	協賛	日本地球惑星科学連日本地球惑星科学連合2012年大会	事務局
1/20	後援	第42回天文・天体物理若手夏の学校	廣井和雄
1/26	協賛	第1回可視赤外線観測装置技術ワークショップ	秋山正幸
2/22	後援	金環日食フェスティバルin海老名	日本スペースガード協会
2/23	協賛	日本流体力学学会年会2012	日本流体力学会
4/6	協賛	Optics-photonics Design & Fabrication国際会議	山口進
4/6	後援	第8回SPIEリモートセンシング	情報通信機構リモートセンシング会議実行委員会
4/6	協賛	第40回可視化情報シンポジウム	可視化情報学会
4/19	協賛	可視化情報全国講演会(姫路2012)	可視化情報学会
4/20	後援	第8回最新の天文学の普及をめざすワークショップ	国立天文台 縣秀彦
4/26	後援	青少年のための科学の祭典2012	日本科学技術振興財団
5/14	後援	第2回近畿地区高校生天文活動発表会	西はりま天文台 時政典孝
5/15	協賛	第30回レーザーセンシングシンポジウム	情報通信研究機構
6/1	協賛	可視化フロンティアPIV講習会2012	可視化情報学会
6/5	後援	第10回高校生科学技術チャレンジ	朝日新聞
6/7	協賛	2012年度科学セミナー	日本物理学会
6/8	共催	第56回宇宙科学技術連合講演会	日本航空宇宙学会
6/14	後援	第59回全国研究大会鳥取	科学教育研究協議会
6/19	後援	第62回東レ科学講演会	東レ科学振興会
6/26	後援	伝統的七夕ライトダウンキャンペーン	国立天文台
6/28	後援	第26回天文教育研究会	天文教育普及研究会
7/12	後援	第10回JSEC2012	朝日新聞
7/17	後援	24年度国立天文台一般公開日	国立天文台
7/25	協賛	Optics & Photonics Japan2012	日本光学会
7/25	協賛	平成24年度女子中学生夏の学校2012	国立女性教育会館
8/14	後援	こどものためのジオ・カーニバル	ジオ・カーニバル実行委員会
10/16	協賛	第2回可視赤外線観測装置技術ワークショップ	可視赤外線観測装置技術ワークショップ実行委員会
12/21	協賛	望遠鏡光学国際会議	精密工学会

## IX. 民間の各賞・研究助成等への推薦(定款第2章第5条5項に該当の事業)

民間財団等の各種の賞および研究助成に対し、天文月報・学会ホームページで候補者を広く募り、理事長・副理事長が中心となって選考した上で学会としての正式の推薦を行った。（東レ科学技術賞 0、東レ科学技術助成 1、日本学術振興会育志賞 0、井上学術賞 0、日本学術振興会賞 0、山田科学振興財団研究援助 1）

## X. 事務所活動（定款第 1 章第 2 条）

日本天文学会事務所では、事務長を含む常勤職員 2 名と約 10 名の非常勤職員により、本会の各事業に関する実際的な業務活動が行われた。

## XI. 会員名簿の作成（定款第 3 章 6 条に該当する活動）

会員名簿の発行に向けて会員情報の更新と原稿作成を行った。その印刷と発行については、公益社団法人へ移行後の 2013 年 1-3 月期に行うこととした。

## XII. 補助金・その他

- 2012 年 9 月 22 日に開催した秋季年会(大分大学)での公開講演会に、科学研究費補助金（研究成果公開促進費「研究成果公开发表（B）」として文部科学省研究振興局学術研究助成課より 100 万円を受領した。
- 欧文研究報告(Publications of the Astronomical Society of Japan : PASJ) に「科学研究費補助金（学術定期刊行物）」として日本学術振興会より 730 万円を受領した。
- 創立 100 周年記念出版事業基金の残金を用いるため、寄贈先を募り、「現代の天文学」全 17 巻セットを多くの人の利用希望が見込まれる日本国内及び海外の教育機関・公共施設 43 ヶ所に送付した。
- 公益社団法人移行申請およびそれに必要な新定款、細則、内規などの改訂作業を行い、2012 年 12 月 19 日に公益社団法人認定を受け、同年 12 月 28 日に設立登記を行った。

### 会 員 数

2012 年 12 月 27 日現在の会員数は以下の通りである。

	正会員(内学生)	準会員	団体会員	賛助会員	合 計
2012 年 12 月 27 日	1,752 (350)	1,196	37	43	3,028
入 会	111 (95)	66	2	2	181
退 会	81 (40)	61	0	1	143
移 籍 (増)	5 (2)	20			
移 籍 (減)	20 (1)	5			
正会員へ(学生減)	(84)				
2012 年 12 月 27 日	1767 (322)	1,216	39	44	3,066

(注：移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

(文責 庶務理事：本原顕太郎)